

今日のアメ横

アメ横商店街は、上野駅と御徒町駅の間の高架鉄道に沿って続いており、一部は高架下になっています。およそ 390 軒の商店からなり、海産物や果物から、化粧品やチョコレートまで、様々な商品が販売されています。これらの店舗は、600m の大通りや、メインストリートから入った所にある数々の裏通りに立ち並んでおり、店先の日除けの下には、目に付く方法で商品が陳列されています。一部の店舗は雑貨屋ですが、大部分の店は、サングラスやジーンズ、ベルト、軍の放出品など、特定の商品に的を絞っています。このように特化した売り方は、アメ横ができて間もない頃にルーツがあります。当時、商店街では、米軍から調達した商品を扱う数多くの業者が営業していました。米軍は、1945 年から 1952 年まで日本を占領していました。

アメ横のもう一つの特徴は、昔ながらの商習慣です。店舗の多くは現金払いのみですが、値切り交渉を認めており、お釣りを返すよりも、おまけの商品を 1 つや 2 つプレゼントしようとしています。アメ横のほとんどの店舗は、長年かけて関係を築いた常連客からなるコア層で成り立っています。したがって、店舗スタッフが、人が通りがかるたびに呼び込む必要性を感じることは滅多にありません。一方で、一見客が興味を示してくれると、たいてい店主は直接話しかけ、その場でお買い得品を勧めようと躍起になります。商品を見て回るのもお勧めです。アメ横の店舗間では競争が激しく、店主は常に相手より安く売るよう努めているからです。

アメ横は、東京で最も綺麗な商店街にはほど遠いですが、地に足がついた、歓迎的な雰囲気のスポートとなっています。特に年末の数日間は、みなぎるエネルギーがこだましています。年末には、東京中の買い物客がアメ横に殺到し、休日の珍味を調達し、陽気な雰囲気を満喫していきます。これは 1970 年代から続く伝統です。